

豊かな出産体験がその後の女性の育児に及ぼす心理的な影響

タケハラ	ケンジ	ノグチ マキ コ
竹原	健二*	野口真貴子 ^{2*}
シマネ	タクヤ	ミサゴチ ツル
嶋根	卓也 ^{3*}	三砂ちづる ^{4*}

目的 本研究では豊かな出産体験がその後の女性の育児に及ぼす心理的な影響について明らかにすることを目的に、出産体験と産後うつ、母性意識、育児困難感の関連を検討した。

方法 本研究は2002年5月～2003年8月の期間に、5つの施設で分娩をしたすべての女性2,314人のうち、条件を満たした1,004人を分析対象としたコホート研究である。本研究では出産直後の女性に対して実施したベースライン調査、産後4か月、9か月、2年6か月、3年時に実施した計4回のフォローアップ調査のデータを用いた。質問項目として、出産体験、母性意識、育児困難感、産後うつを測定する尺度を用いた。すべてのデータは調査員が診療録からの転記、および質問票を用いた直接面接によって収集された。

結果 出産体験尺度の得点が高い女性は、産後の母親役割に対して肯定的に捉えられるようになり、育児不安や育児ストレスが軽減することが明らかになった。出産体験と産後うつの関連については、二変量解析においてのみ、弱い関連が示された。

結論 本研究を通じて、女性がより豊かな出産体験をすることは、自身の母親役割の受容に対する否定感や、児に対する攻撃衝動性を抑制することにつながるということが明らかにされたことから、育児不安や育児ストレスの軽減、児童虐待の予防に対して、妊娠・出産時からの関わりも重要であることが示唆された。今後は出産体験を高めるような決定因子が明らかにされ、具体的なケアや介入方法が提言されることが望まれる。

Key words : 出産体験, 育児不安, 母性, 産後うつ, 縦断研究

* 国立成育医療センター研究所成育政策科学研究部

^{2*} 東京女子医科大学看護学部

^{3*} 国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部

^{4*} 津田塾大学学芸学部

連絡先：〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1

国立成育医療センター研究所 成育政策科学研究部

竹原健二